

2025年3月期

第1四半期決算説明資料

株式会社エンバイオ・ホールディングス
(証券コード:6092)

2024年8月14日



1. 業績ハイライト

2. セグメント別状況

3. 連結通期予想

4. 株主還元・IR

5. Appendix

業績ハイライト 01

2025年3月期 第1四半期連結決算のポイント

- 1 **土壌汚染対策事業**は、期初受注残が大幅増加で始まったこと、工事部門の稼働率向上に伴い大型案件が順調に進捗したこと、および原価改善により前年同期比増収増益で着地。
- 2 **ブラウンフィールド活用事業**は、競争が激化する状況下でも順調に仕入・販売を実施。予算を上回ったものの、前年同四半期に大規模物件の取引があったことから前年同期比では減収減益で着地。
- 3 **自然エネルギー事業**は、出力抑制の影響により売電収入が計画を下回ったが、再エネ電力供給サービスが順調に推移して前年同期比増収増益で着地。

2025年3月期 第1四半期連結決算ハイライト

(単位:百万円)

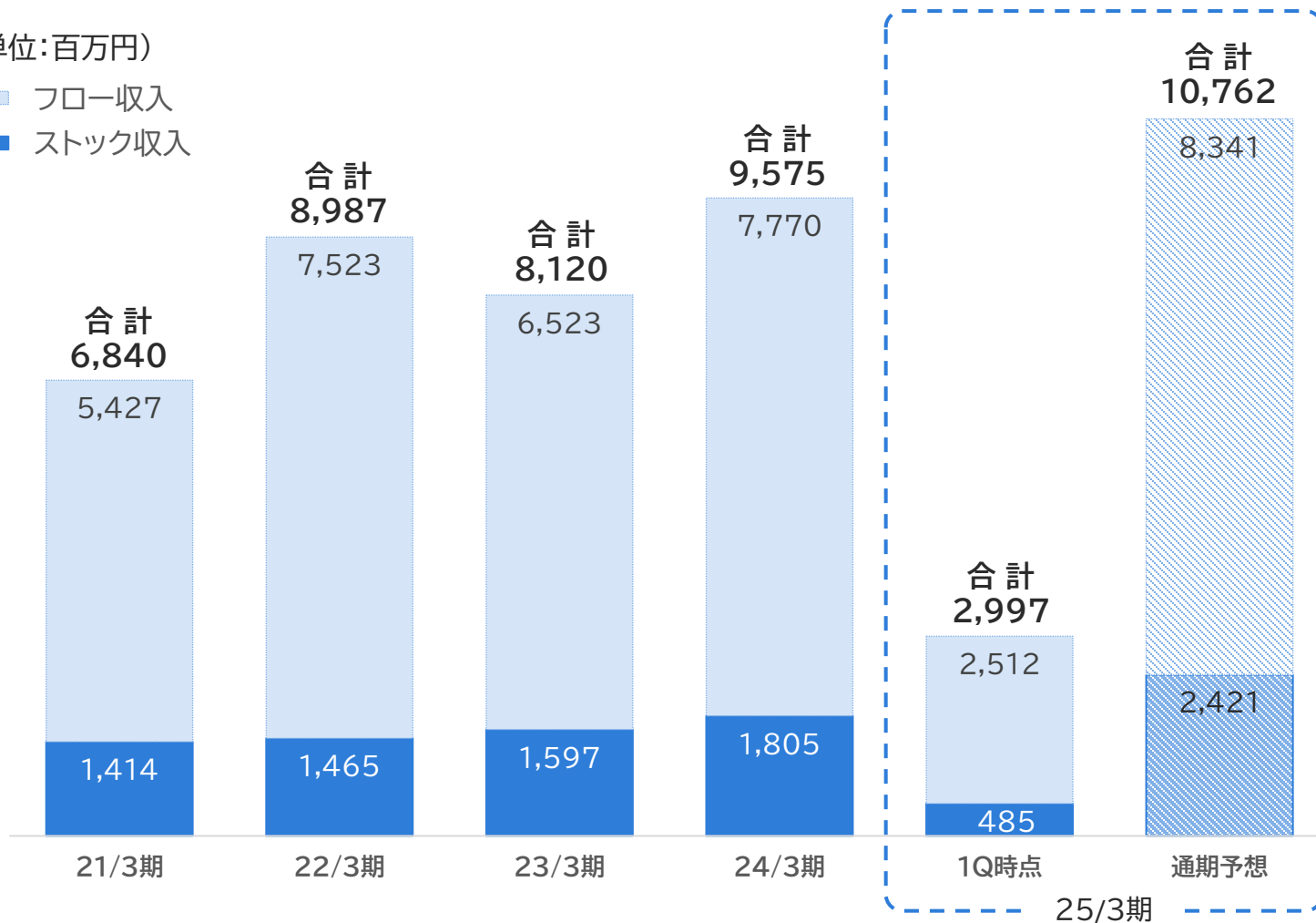
	2024年3月期 1Q実績		2025年3月期 1Q実績		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	3,423	100	2,997	100	87.6
営業利益	240	7.0	395	13.2	164.6
経常利益	345	10.1	513	17.1	148.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	170	5.0	351	11.7	206.0
期末為替レート (1ドル)	144.99円	—	161.14 円	—	—

重要な指標：売上高の推移／収益構造転換の進捗状況

売上高の通期予想に対する進捗率：27.8%

(単位:百万円)

- フロー収入
- ストック収入



【収益構造転換について】

- ✓ 中期的な目標として、フロー収入からストック収入の比率を増やし、強靱な利益体質への変更を目指している
- ✓ 主に自然エネルギー事業のストック売上高を積み上げることで強靱な利益体質にする
- ✓ 中期経営計画2026の最終年度までに配当原資である自然エネルギー事業の利益を拡大させる

重要な指標：投資効率／関与太陽光パネルの出力状況

投資効率の推移

EBITDAベースによる前年同期比でも大幅な伸びを示す。

(単位:百万円)

	24/3期 1Q	25/3期 1Q	前年比
売上高	3,423	2,997	87.6%
経常利益	345	513	148.7%
EBITDA ※	341	548	160.4%

※ 比較実効性の観点から、EBITDAから為替差損益の影響を除外した値としております。

当社が関与する太陽光パネルの出力

短期的に太陽光発電所の保有出力を100MWに引き上げることを目標としている。

当四半期における達成状況は次のとおり。

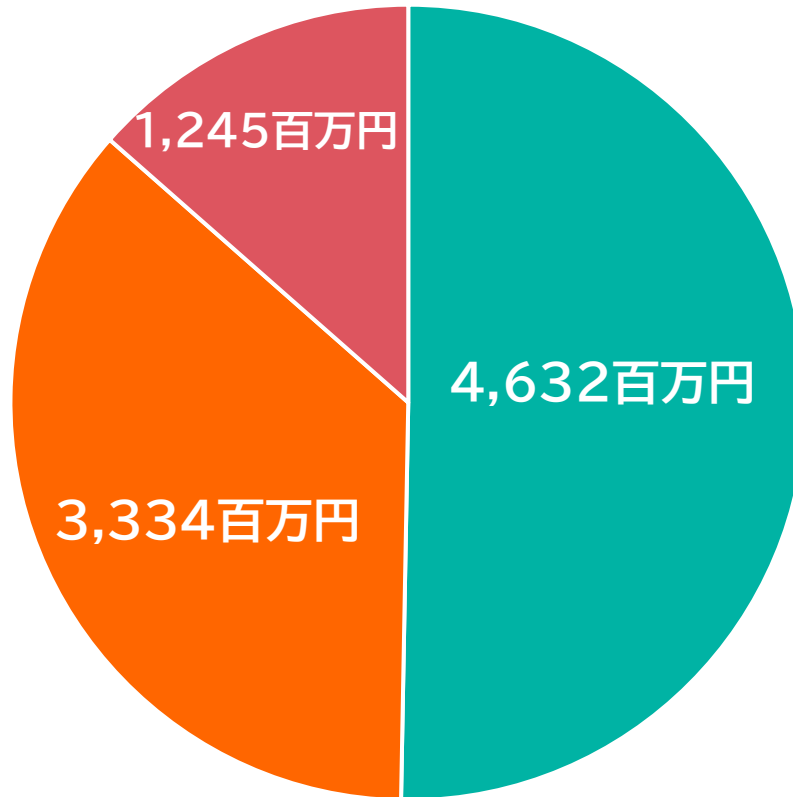
	23/3期	24/3期	25/3期 1Q
MW	44.1 MW	48.4 MW	50.0 MW
関与MW ※1.	— MW	7.9 MW	11.0 MW
当期トピック ※2.	—	—	LS厚木 I の運転開始

※1. 関与MWはインドネシア関連会社を通じた投資で業績には反映されていない。

※2. LSは、(株)シーアールイーが開発する物流施設「LogiSquare(ロジスクエア)」。

重要な指標：有利子負債残高の内訳

有利子負債の合計 9,211 百万円 (2024年6月末)



■ 自然エネルギー事業

設備投資目的
長期安定収益/配当原資確保
低リスク

■ ブラウンフィールド活用事業

不動産投資目的
短中期アップサイド収益狙い
中リスク

■ 土壌汚染対策事業/グループ管理

運転資金目的
短期収益
低リスク

有利子負債の額は売上規模に比し多額であるが、リスクのある借入はブラウンフィールド活用事業の部分のみ(中リスク)と判断しており、リスクをコントロールしつつROE向上に資する積極的な借入を行う財務戦略を推進している。

セグメント別状況

02

2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

- ✓ 土壌汚染対策事業は、期初受注残が大幅増加で始まったこと、工事部門の稼働率向上に伴い大型案件が順調に進捗したこと、および原価改善により前年同期比増収増益で着地。
- ✓ ブラウンフィールド活用事業は、競争が激化する状況下でも順調に仕入・販売を実施。予算を上回って着地。
- ✓ 自然エネルギー事業は、再エネ電力供給サービスが順調に推移して前年同期比増収増益で着地。

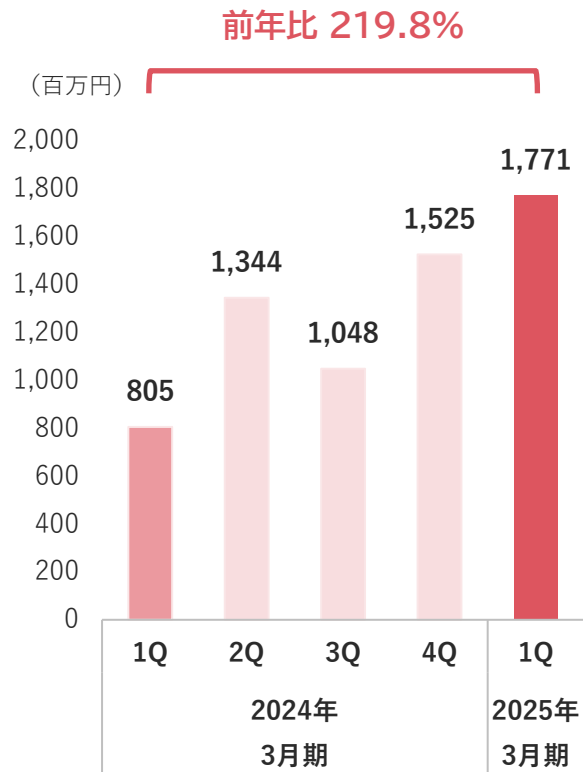
(単位:百万円)

	2024年3月期 1Q実績		2025年3月期 1Q実績		
		構成比(%)		構成比(%)	前年比(%)
売上高	3,423	100	2,997	100	87.6
土壌汚染対策事業	805	23.5	1,771	59.1	219.8
ブラウンフィールド活用事業	2,185	63.9	631	21.1	28.9
自然エネルギー事業	431	12.6	594	19.8	137.7
経常利益	345	100	513	100	148.7
土壌汚染対策事業	△ 41	△ 12.0	219	42.8	—
ブラウンフィールド活用事業	207	60.3	95	18.6	45.9
自然エネルギー事業	122	35.5	135	26.3	110.5
その他	56	16.2	63	12.3	132.5

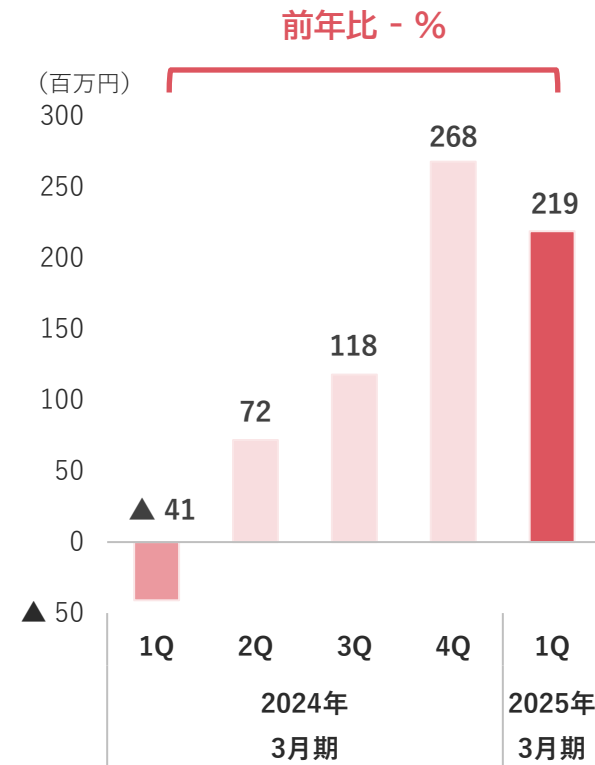
2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

土壤汚染対策事業

セグメント売上高



セグメント利益



1Qの結果・成果

- ✓ 差別化された技術提案に注力
 - ✓ 土壤汚染の管理を目的とする経済的な対策(リスク管理型手法)
 - ✓ 対策工事の総額を保証する責任施工保証
 - ✓ 原位置透過壁工法(ブルームストップ工法)
- ✓ PFOS・PFOA調査対応製品を揃えて顕在化しつつある新たな市場にいち早くアプローチ
- ✓ 中国事業では日系企業の工場移転や事業撤退に伴う土壤汚染対策に注力
- ✓ 期初受注残の大幅増加により、売上高、セグメント利益とも前年同期比を上回った

土壤汚染対策事業

市場環境

- ▲ 解体工事と一体での引き合いが増加し、解体事業者との競合が激化傾向
- ▲ 土壤汚染に対する理解が進み、完全浄化を求めず経済性を重視して予算を縮小する傾向
- ✕ 建築資材等の高騰によるコスト上昇から開発計画が中止となり消滅する案件が散見
- PFOS※1・PFOA※2による地下水汚染の全国的な顕在化と政策的な検討開始
- 中国市場はコロナ対策で遅延していた工場移転に伴う土壤汚染対応が漸く始動

営業状況

- 土壤汚染の管理を目的とした対策(リスク管理型手法)や土壤汚染対策費用の総額を保証する責任施工保証など差別化されたサービスの提案を強化
- リスク管理型手法の新工法として米社より新たな原位置透過壁工法(Appendixに詳細記載)を導入
- PFOS※1・PFOA※2対応サービスの提案を強化、大学と共同研究でPFAS分解技術の開発に着手
- 土壤汚染対策工事で培った設備設計、設置、維持管理能力を生かした環境インフラ事業で顧客開拓

※1 ペルフルオロオクタンスルホン酸の略称

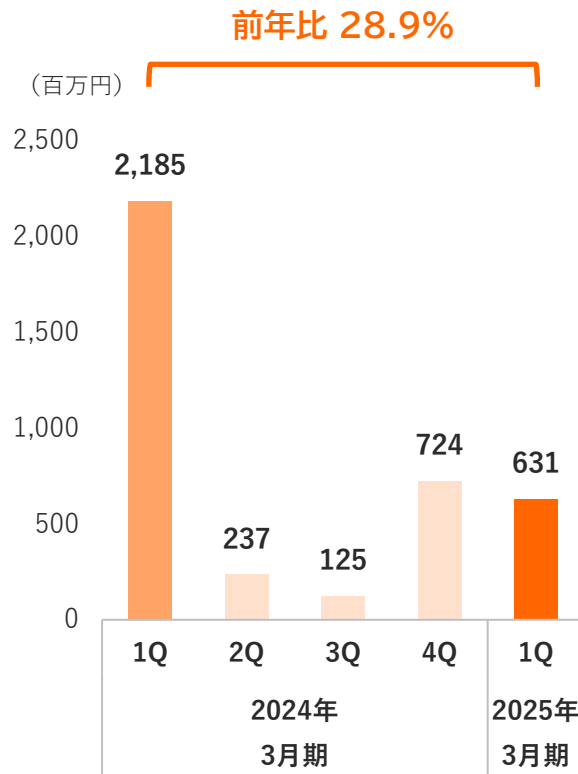
※2 ペルフルオロオクタンスルホン酸の略称

環境省は2020年5月28日、PFOSとPFOAを人の健康の保護に関する要監視項目に位置づけ、公共用水域及び地下水における暫定指針値を1リットルあたり50ナノグラム(50 NG/L、PFOSとPFOAの合計値)に定めた

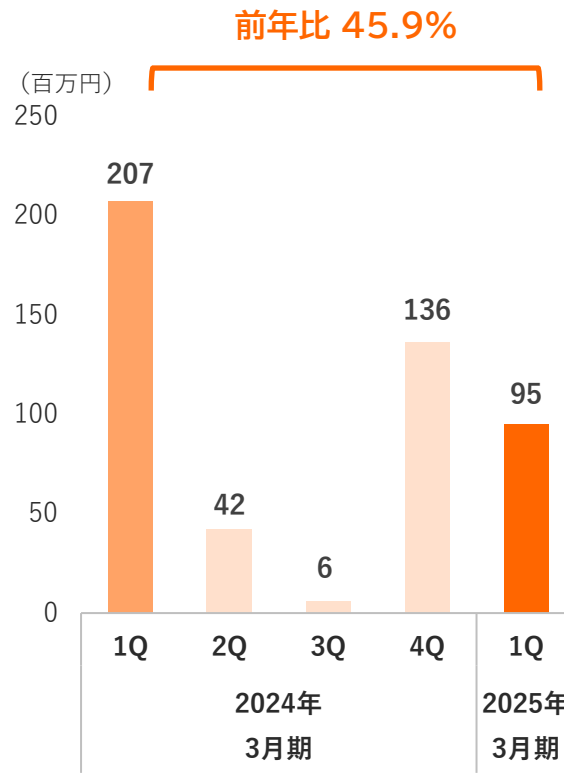
2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

ブラウンフィールド活用事業

セグメント売上高



セグメント利益



1Qの結果・成果

- ✓ (株)エンバイオ・リアルエステートでは、4物件の購入、5物件の売却。市況が厳しい中でも順調に成約できた
- ✓ (株)土地再生投資は、6件の受注斡旋(土壌調査・浄化工事、売電事業等)を実施
- ✓ 前年同期に大規模物件の取引があったことから前年同期比ではマイナスであるが、予算対比では順調に推移している

ブラウンフィールド活用事業

市場環境

- ▲ 不動産市場は、建築資材価格の高騰等により住宅販売価格が上昇し、エリアによっては住宅需要に影響が出ている
- 工業地帯は、大型物流施設や工場用地などの引き合いが強く、地価は上昇傾向

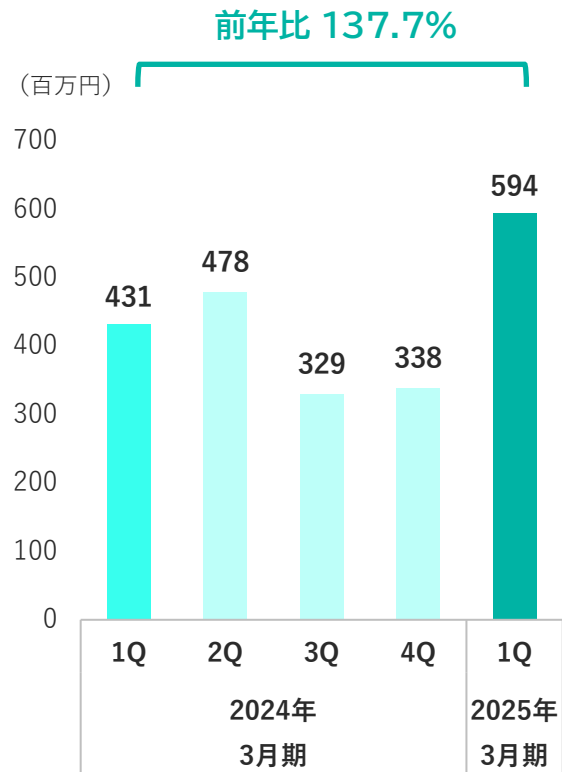
営業状況

- (株)エンバイオ・リアルエステート
 - 埼玉県川越市内の中規模の工場跡地を購入し地歴調査を実施中
 - 形質変更時要届出区域の指定を受けた土地に住宅を建てて売却
- (株)土地再生投資
 - 複数の売却案件の相談を受けており、調査・対策等の提案を実施している
 - 保有する第4号案件(千葉県八千代市)の土地利活用について交渉中

2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

自然エネルギー事業

セグメント売上高



セグメント利益



1Qの結果・成果

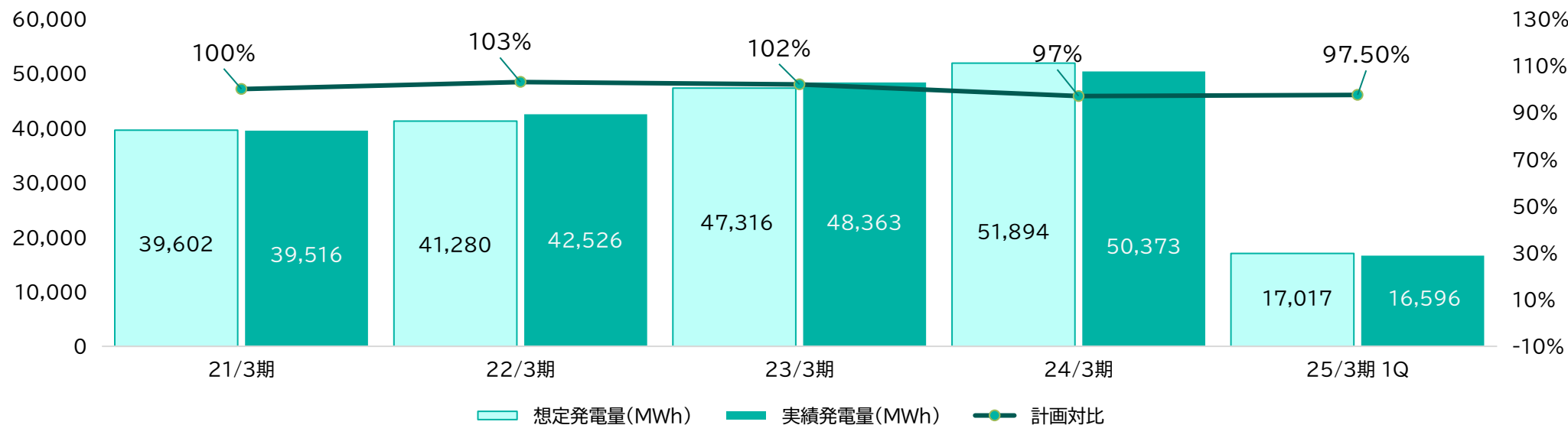
- ✓ MaF(合)では、PPA(電力購入契約)事業を7か所(合計1.8MW)稼働済
- ✓ 6月10日LSふじみ野A着工(DC3.1MW)
- ✓ 6月25日LS厚木 I 運転開始(DC0.5MW)
- ✓ 新規事業の検討中

2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

自然エネルギー事業

国内外における太陽光発電電力量

	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期 1Q
物件数	31	36	43	51	52
パネル出力(MW)	36.9	39.8	44.1	49.5	50.0
想定発電量(MWh)	39,602	41,280	47,316	51,894	17,017
実績発電量(MWh)	39,516	42,526	48,363	50,373	16,596
差異(MWh)	△ 86	1,246	1,047	△ 1,521	△ 421
計画対比	100%	103%	102%	97%	97.5%



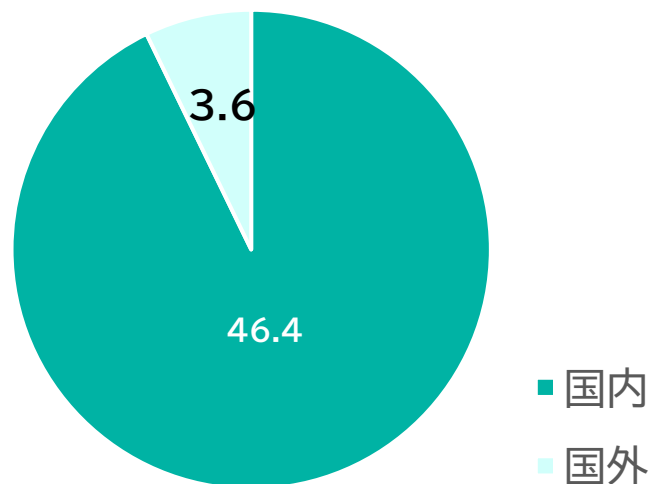
2025年3月期 第1四半期セグメント別業績

自然エネルギー事業

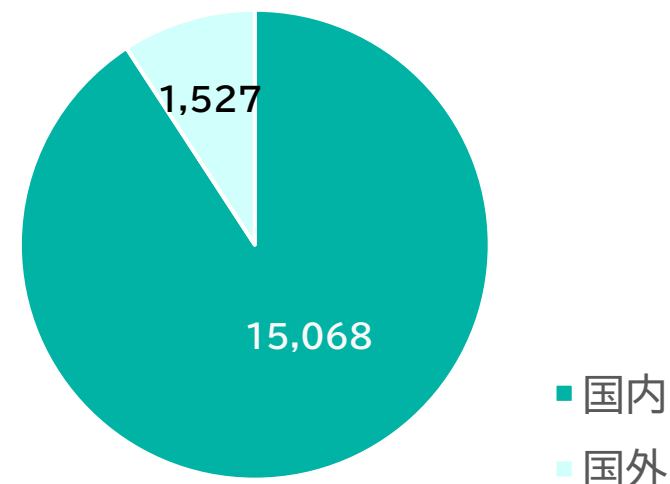
ポートフォリオ概要

	国内	国外
物件数	46	6
合計パネル出力(MW)	46.4	3.6
25/3期1Q 実績発電量(MWh)	15,068	1,527

合計パネル出力(MW)



25/3期1Q 実績発電量(MWh)



連結通期予想

03

2025年3月期 連結通期予想

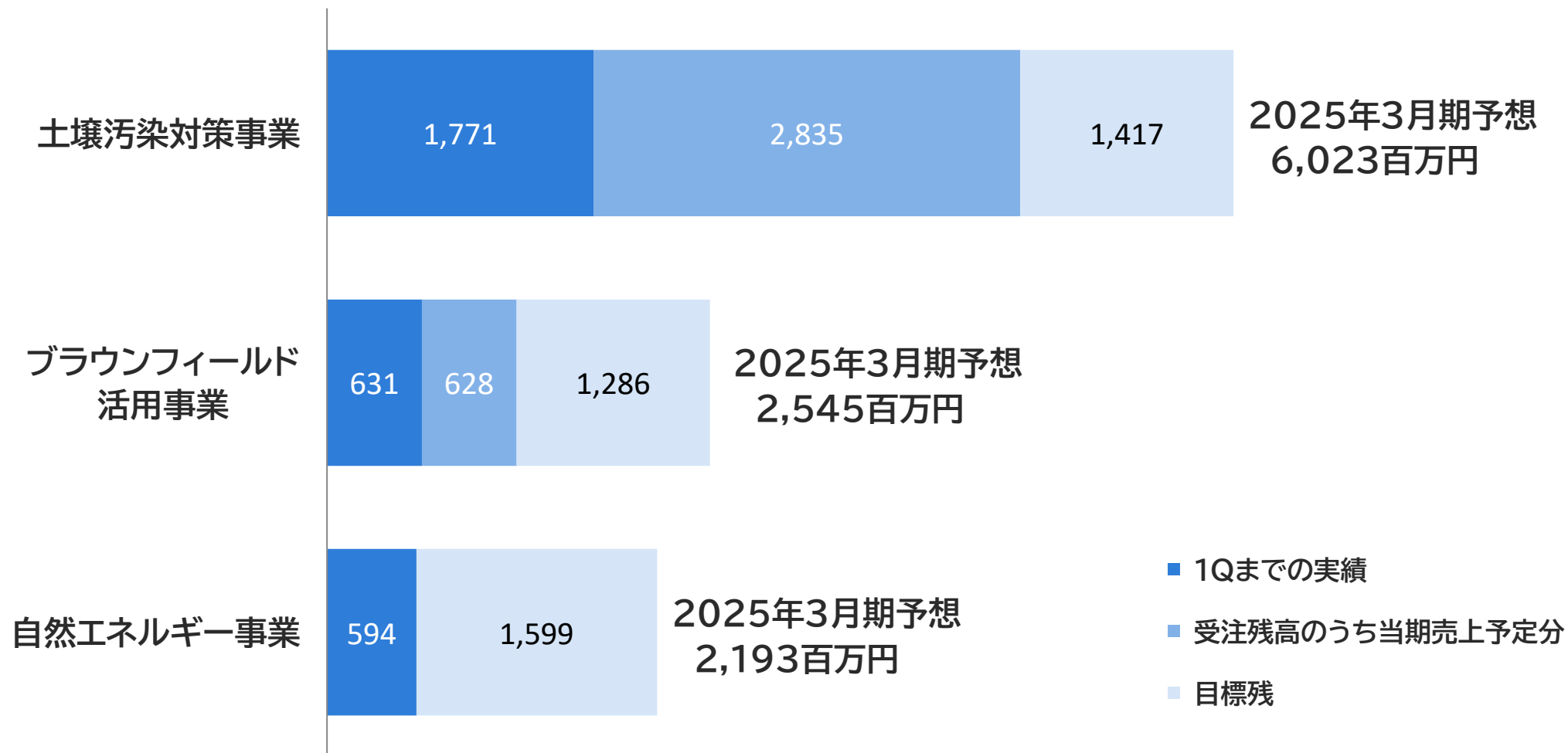
(単位:百万円)

	2024年3月期 実績		2025年3月期 予想		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年比 (%)
売上高	9,575	100	10,762	100	112.4
営業利益	815	8.5	604	5.6	74.1
経常利益	1,067	11.1	508	4.7	47.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	708	7.4	340	3.2	48.1
期末為替レート(1ドル)	151.4円	—	151.4円	—	—

セグメント別の受注状況

2024年7月19日現在

(単位:百万円)



株主還元・IR 04

株主還元

「将来の事業展開のための内部留保の充実」と「成長に応じた利益還元」を両立させることを重要な経営課題として位置付け、継続的かつ安定的に配当することを基本方針としている。また、中長期的に株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的に、2023年9月より株主優待制度を導入。

配当(還元率)

配当は、ストックビジネスである自然エネルギー事業の既設設備から得られる収益の約30%を当面の配当原資とすることで、配当の安定的な増加の実現を目指している

	2024年3月期	2025年3月期(予想)
1株当たり配当額	8.00 円	8.00 円
株主還元 合計 (A)	91.9 百万円	91.9 百万円
配当総額	65.1 百万円	65.1 百万円
株主優待	26.8 百万円	26.8 百万円
当期純利益 (B)	708.7 百万円	340.0 百万円
還元率 (A)÷(B)	13.0 %	27.0 %

株主優待

- ① 株主優待の内容
保有する株式数に応じたポイントが加算され、株主様限定の特設サイトにおいて、そのポイントと食品、電化製品、ギフト等の交換
- ② 対象となる株主様
毎年9月末現在の当社株主名簿に記載又は記録された700株以上保有の株主様

保有株式数と付与ポイント数

保有株式数	付与ポイント数
700株～799株	3,000ポイント
800株～899株	5,000ポイント
900株～999株	10,000ポイント
1,000株以上	20,000ポイント

Appendix 05

会社概要

セグメント別 事業概要

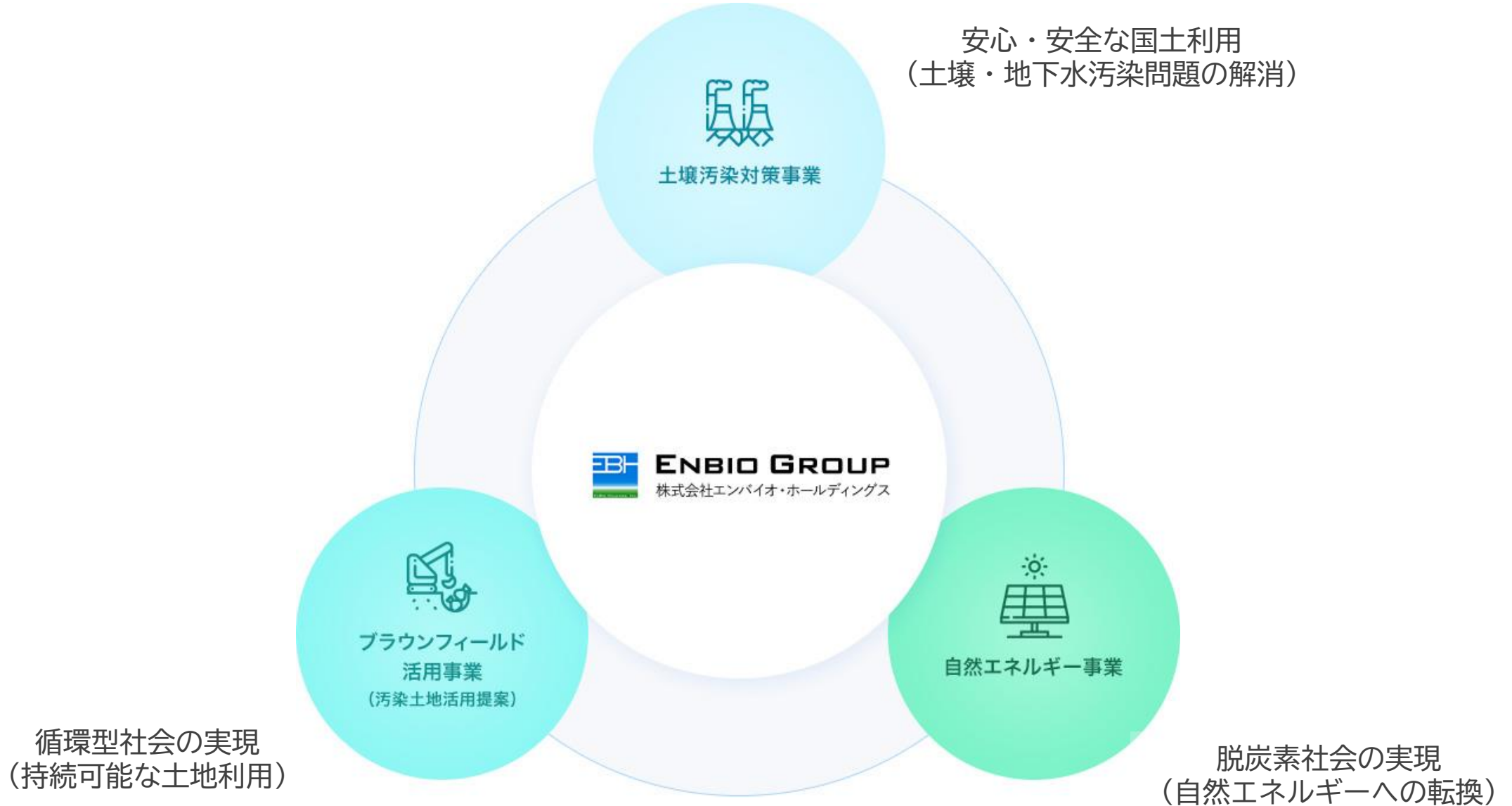
ご案内

会社概要

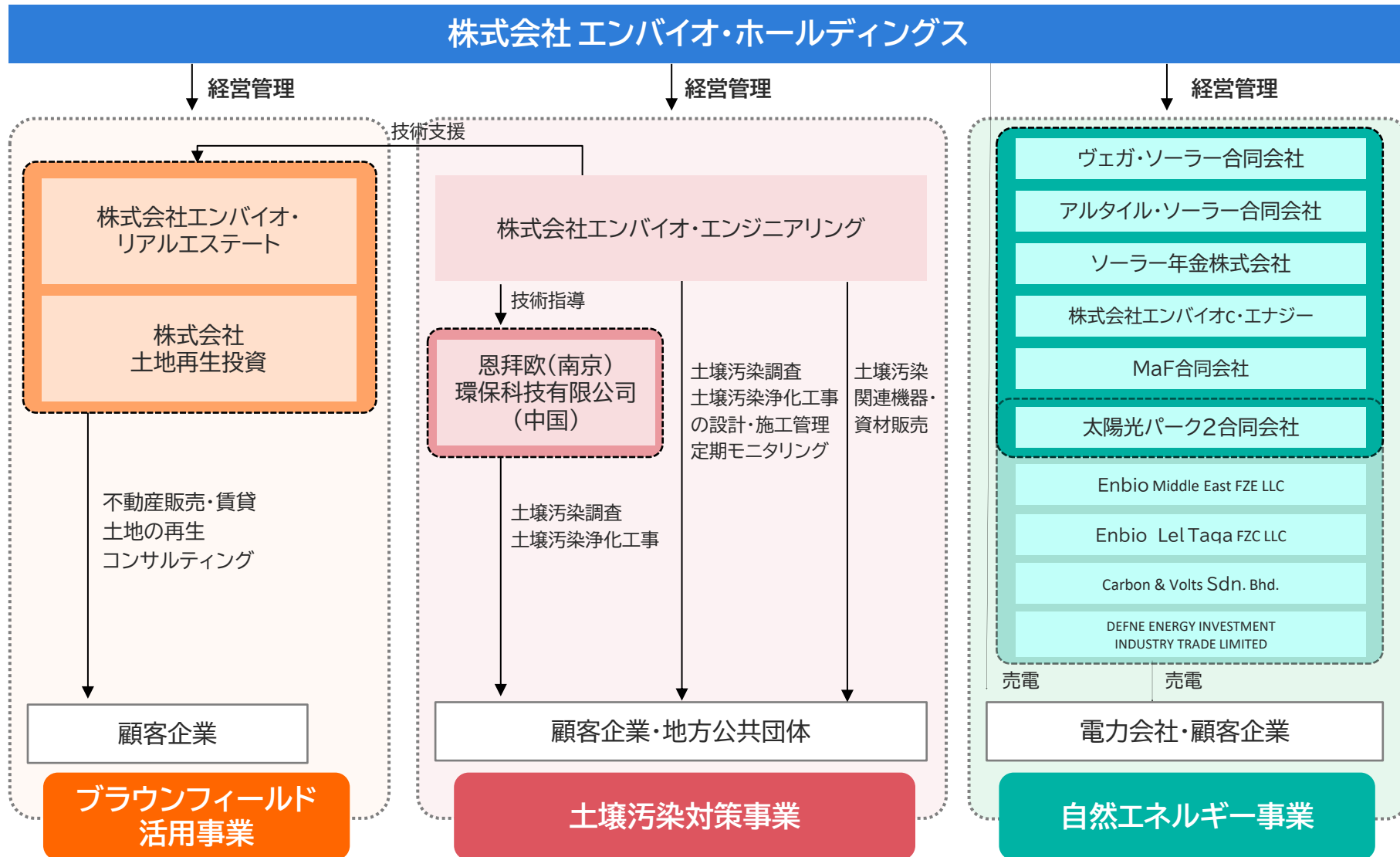
会社名	株式会社エンバイオ・ホールディングス	
本社	東京都千代田区鍛冶町2丁目2番2号	
代表者	代表取締役社長 中村 賀一	
設立日	1999年6月23日	
資本金	2,325百万円	
発行済株式数	8,175,200株	
役員	代表取締役社長	中村 賀一
	取締役会長	西村 実
	取締役	山本 敏仁
	取締役	横溝 透修
	取締役	田月 智之
	社外取締役	亀山 忠秀
	社外取締役	小竹 由紀
	社外取締役 常勤監査等委員	高山 和夫
	社外取締役 監査等委員	星野 隆宏
	社外取締役 監査等委員	平田 幸一郎
社外取締役 監査等委員	行川 一郎	
従業員数	106名（グループ全体、2024年3月末時点）	

事業内容	土壌汚染の調査・対策工事・コンサルティング ブラウンフィールドの活用 自然エネルギーの活用
主要な子会社	■ 土壌汚染対策事業 株式会社エンバイオ・エンジニアリング 恩拜欧(南京)环保科技有限公司
	■ ブラウンフィールド活用事業 株式会社エンバイオ・リアルエステート 株式会社土地再生投資（60%）
	■ 自然エネルギー事業 ヴェガ・ソーラー合同会社 アルタイル・ソーラー合同会社 ソーラー年金株式会社 太陽光パーク2合同会社 株式会社エンバイオC・エナジー MaF合同会社(90%) Enbio Middle East FZE LLC(UAE) Enbio Lel Taqa FZC LLC(UAE) (80%) DEFNE ENERGY INVESTMENT INDUSTRY TRADE LIMITED (TURKEY) (76%)
主要な関連会社	Carbon&Volts Sdn. Bhd. (40%)

会社概要 3つの事業セグメント



会社概要 事業系統図



事業概要 土壌汚染対策事業

土壌汚染事業の取り組み 汚染土壌の管理を目的とした対策

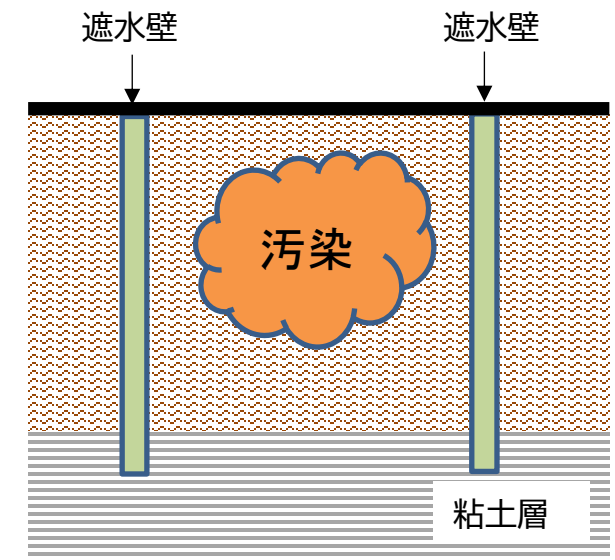
リスク管理型の手法により、対策費用と期間を大幅に圧縮するとともに、脱炭素を目指す取り組みにも貢献している。



原位置封じ込め工法の作業状況
(地盤改良機による遮水壁の設置)

原位置封じ込め工法の特徴

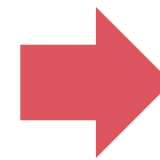
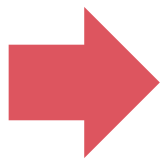
汚染を周辺の地下水から遮断することで健康被害が生じることを防止する工法
高濃度汚染の場合は原位置浄化工法を併用する
必要があり、自社技術をさらに活かしやすい



事業概要 土壌汚染対策事業

土壌汚染事業の取り組み ドローンを利用した施工管理

ICTの活用により、環境に配慮した効率の良い工法の実用化に取り組んでいる。



解体と土壌汚染対策を
並行して施工した事例



ドローンを利用した
施工管理の状況



グループ内発電所の
点検にもドローンを利用

事業概要 土壌汚染対策事業

PFOS・PFOA対応に有効な米国製ツール・薬剤

これらの製品を独占的に輸入し自社で利用するだけでなく、販売を通して専門業者向けのサービスも展開している。
PFOS・PFOAの調査で求められるPFASフリー製品を各種揃えている。



環境調査専用開発されたツール



米国の規格(ASTM)に準拠した製品は、意図しない不純物の混入を防ぐための配慮の徹底化

PlumeStop™
LIQUID ACTIVATED CARBON™



Geoprobe®



PFOS汚染の拡散防止剤
(地盤に注入して使用)

事業概要 土壌汚染対策事業

新技術・工法の導入

揚水対策以外で拡散防止／メンテナンス不要な工法

【施工前】



【施工後】



- ✓ 米国リジェネシス社が開発したPlumeStop工法、欧米では揚水処理工法の代替として660件超の実績を誇り、国内では同社製品の独占販売権を有する当社でのみ設計・施工が可能
- ✓ 特殊な活性炭を地盤に注入し、地下水中の汚染物質を吸着させて地下水汚染の拡散を防止するメンテナンスフリーの原位置透過壁を形成する工法、既存の透過壁に比べて圧倒的な価格競争力を有す
- ✓ 欧米ではPFOS・PFOAによる汚染地下水の拡散防止技術としても認知

PlumeStop[™]
LIQUID ACTIVATED CARBON[™]



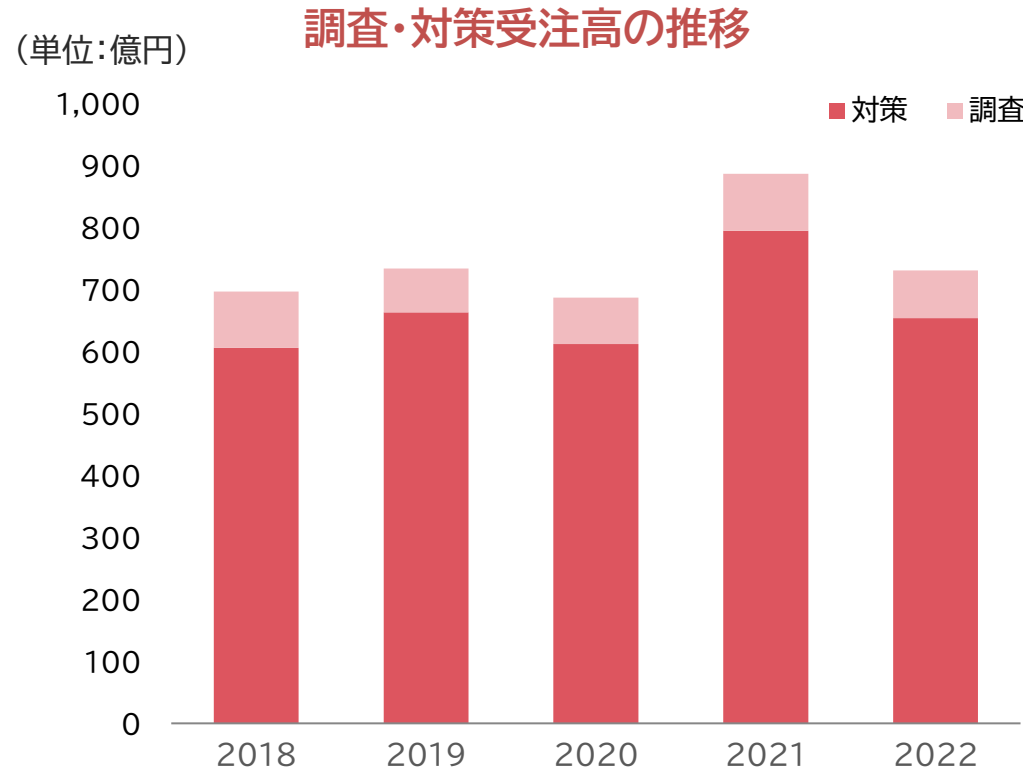
Geoprobe[®]

地下水汚染の拡散防止剤
(地盤に注入して使用)

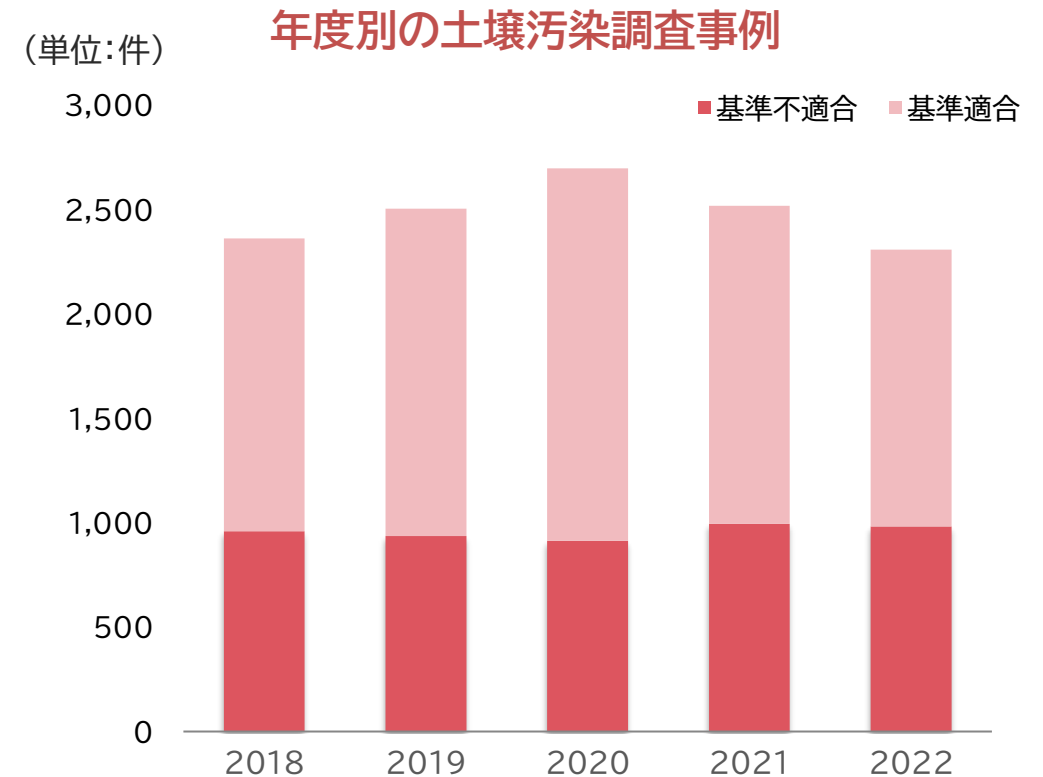
事業概要 土壌汚染対策事業

土壌汚染対策事業の市場規模

2019年4月土壌汚染対策法の一部を改正する法律施行、土壌汚染調査の契機が拡大
受注金額はここ数年700～900億円のレンジで推移



出所: 令和4年度土壌汚染状況調査・対策に関する実態調査(土壌環境センター)



出所: 令和4年度土壌汚染対策法の施行状況及び土壌汚染調査・対策事例等に関する調査結果(環境省)

事業概要 土壌汚染対策事業

土壌汚染事業の取り組み 中国展開

会社名	恩拜欧(南京)環保科技有限公司 (100%出資子会社)
代表者	董事長兼總經理 王 寧
資本金	950万人民元 (2022年9月30日現在)
設立日	2018年2月12日
決算期	12月
事業内容	土壌汚染調査・対策工事の設計、施工及び管理 環境・労働安全衛生に関するコンサルティング
許可	環保工程專業承包三級

サービスメニュー

- ✓ 工場移転、M&Aに備えた環境デューデリジェンス
- ✓ 工場移転、用途変更、再開発時の土壌汚染調査及びリスク評価、専門家審査会対応
- ✓ 重点監視管理企業の土壌潜在汚染調査、自主モニタリング
- ✓ 土壌汚染修復方案の策定、専門家審査会対応
- ✓ 土壌汚染修復工事の設計・施工及び管理、専門家審査会対応

日本の経験・実績を基にした修復技術を日本品質で提供
日系企業には日本本社向けに報告書・報告会の日本語対応

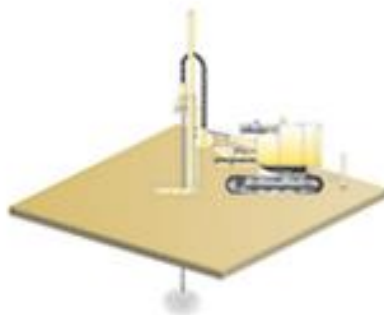
事業概要 ブラウンフィールド活用事業

(株)エンバイオ・リアルエステート の取り組み

①所有者様から汚染地を購入



②薬剤などで浄化



③宅地などとして売却



(例)

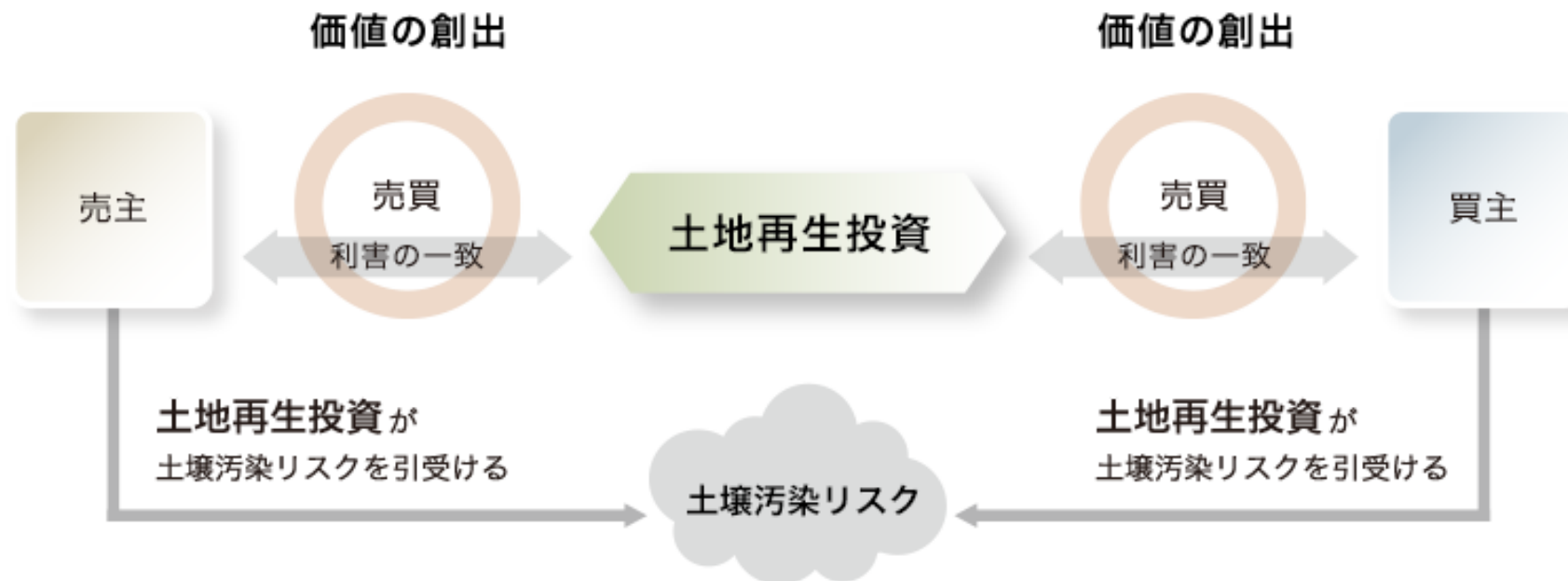
- ✓ 所有者の会社清算に伴い、弊社にて現況有姿・土壌汚染を含む契約不適合責任免責にて購入
- ✓ 弊社取得後、土壌調査を実施し、要措置区域に指定(購入時に想定済)
- ✓ (株)エンバイオ・エンジニアリングが土壌浄化(原位置浄化)施工後、2年間モニタリング実施
- ✓ 要措置区域解除後、大手戸建業者へ売却

事業概要 ブラウンフィールド活用事業

(株)土地再生投資 の取り組み

土地取引における土壤汚染のリスクテイク

- ① 土壤汚染が内在する土地、土壤汚染リスクが指摘される土地を現状有姿で取得
- ② 適切な土壤汚染対応を講じたうえで、最終需要家へ再生後の土地を売却



事業概要 自然エネルギー事業

自然エネルギー事業 の取り組み

太陽光発電
(国内外で61MW ※インドネシア含む)



FITやPPA等による太陽光発電

水力発電・太陽光発電
(インドネシア)



太陽光発電・水資源開発
(ヨルダン)



太陽光発電を利用した水資源開発

バイオマス発電・地域バイオマス利用
(トルコ)



地域バイオマスを利用したガス化発電

太陽光発電事業

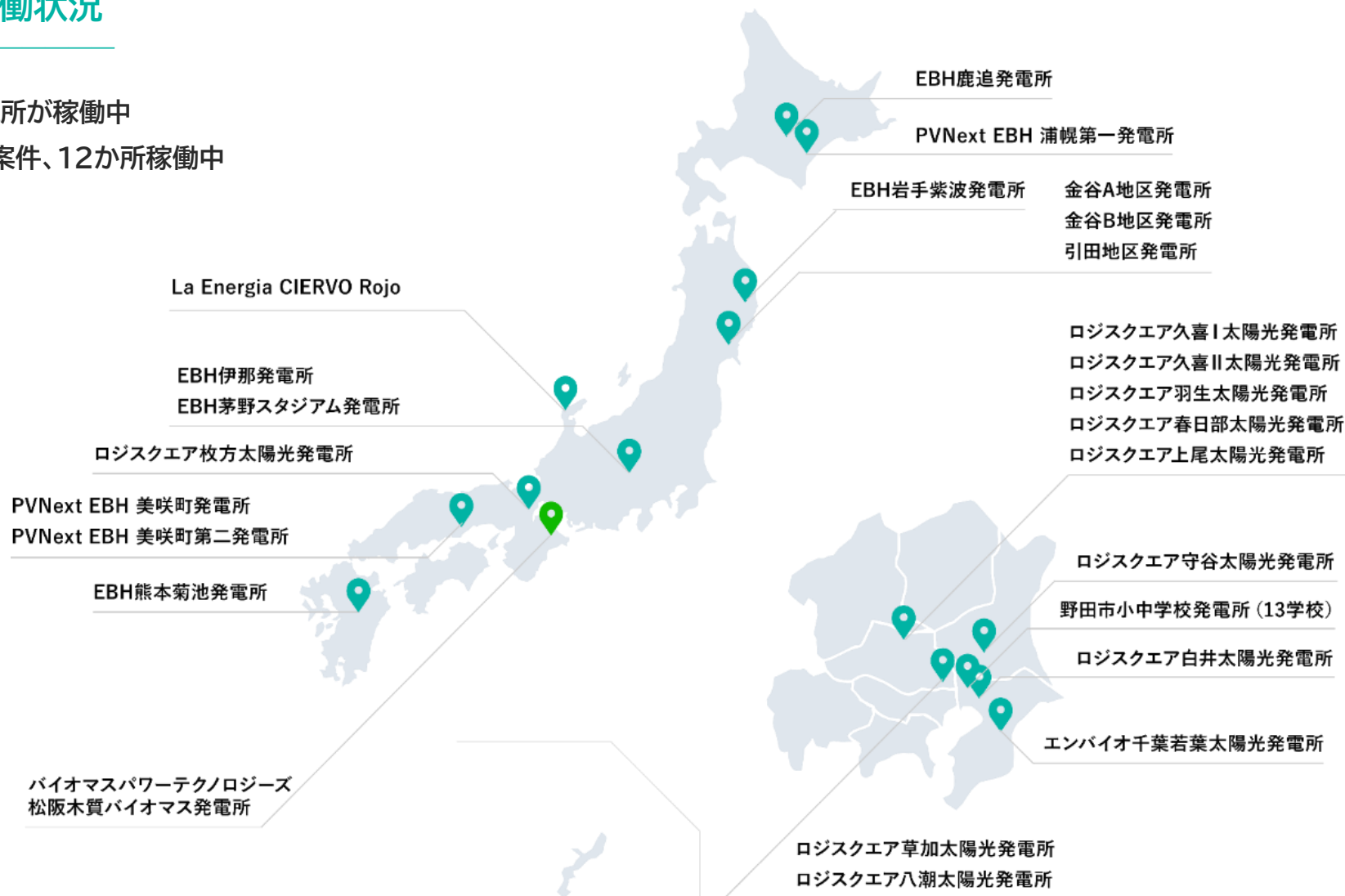
太陽光発電所
(ロジスクエア厚木 I 太陽光発電所) 0.5MW



国内太陽光発電所の稼働状況

約 **46.4MW** の太陽光発電所が稼働中

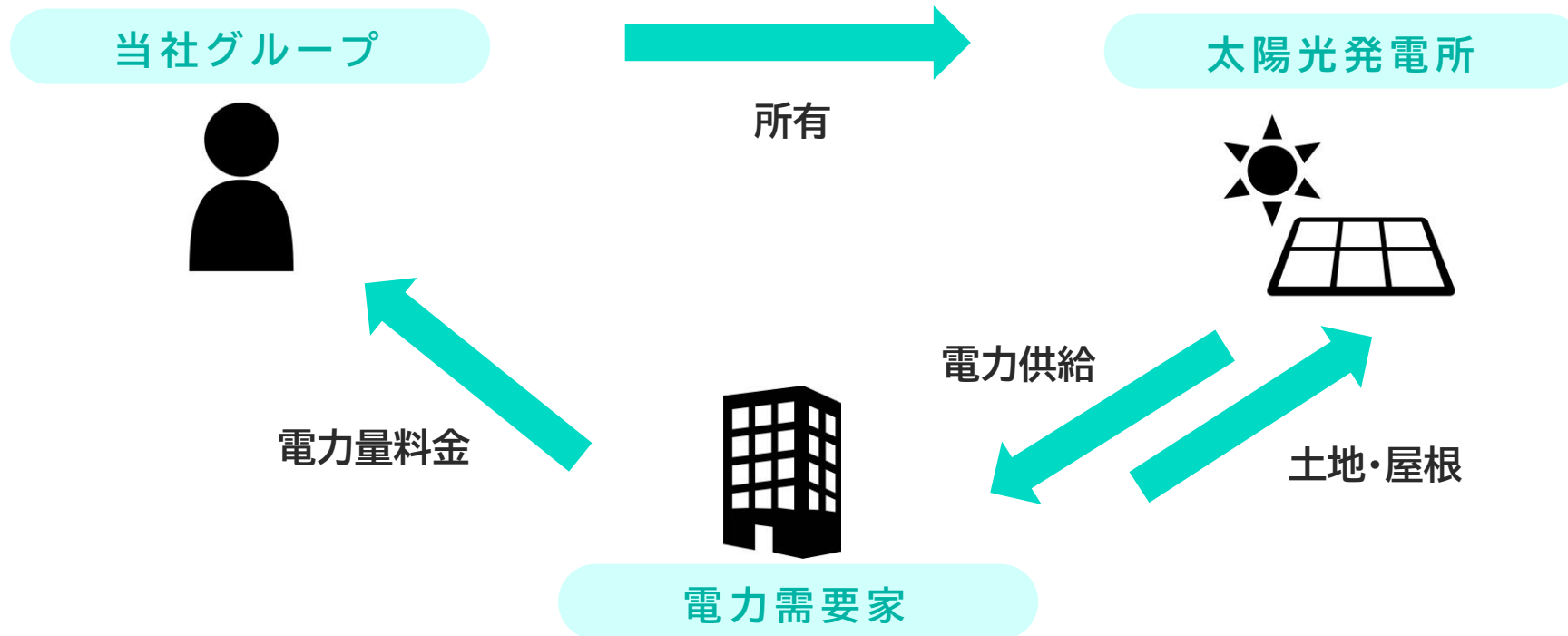
(2024年6月末現在) ※PPA案件、12か所稼働中



事業概要 自然エネルギー事業

PPA※：電力購入スキーム図

中期経営計画の経営目標である脱炭素社会の実現に向けた取り組み



※Power Purchase Agreement(電力販売契約)の略で、施設所有者の屋根や空地等のスペースに太陽光発電設備の所有、管理を行う会社(PPA事業者)が設置した太陽光発電システムで発電された電力をその施設の電力使用者(施設所有者)へ有償提供する仕組み

事業概要 自然エネルギー事業

海外事業の取り組み

ヨルダン・ドバイ(太陽光発電所)

- ✓ ヨルダンにて5プロジェクト合計2.8MWの太陽光発電所が計画通りに稼働中
- ✓ ドバイ、インダストリアルシティー地区(DIC)にて0.7MWの太陽光発電所が計画通りに稼働中
- ✓ 新規案件検討中



トルコ(バイオマス発電所)

- ✓ 地方環境局より、環境ライセンスの追加を要請され、その対応の為運転を停止し、整備を進めていた。まだいくつかの対応は残すものの、ある程度の目途が立ち、再稼働へ向け準備中



ご案内 YouTube 公式チャンネルについて

エンバイオ・グループ公式チャンネル
@enbiogroups · チャンネル登録者数 342人 · 93本の動画
当社PR情報を解説いたします。...さらに表示
enbio-holdings.com
チャンネル登録

ホーム 動画 ショート 再生リスト

【エンバイオ・ホールディングス】エンバイオ・グループ事...
668 回視聴 · 2 か月前
エンバイオグループの事業紹介。エンバイオ・ホールディングスの代表取締役社長中村より、皆様にも少しでもご理解いただけますようすべてスライドを使ってご説明いたします。
▼【構成】(全6分46秒)
0:00 はじめに
0:11 グループテーマについて...
詳細

人気の動画 ▶ すべて再生

【エンバイオ・ホールディングス】今話題の「PFAS」に... 1561 回視聴 · 10 か月前
【エンバイオ・ホールディングス】太陽光発電・水資源... 1230 回視聴 · 1 年前
【エンバイオ・ホールディングス】インドネシア・水力... 1175 回視聴 · 9 か月前
【エンバイオ・ホールディングス】中小企業の土地利用... 1151 回視聴 · 8 か月前
【エンバイオ・ホールディングス】人気のヨルダン現地... 1110 回視聴 · 8 か月前
【ロジスクエア牧方】物流倉庫... 1061 回視聴 · 10 か月前

社長室 ▶ すべて再生

エンバイオ・グループのビジョン・世界観・業務内容などを積極的に示し、これらに共感していただけるステークホルダーの方々が增多することが、長期的な企業価値・認知度向上につながると考え、YouTubeにて、当社の事業を具体的にイメージしていただけるような動画を配信しております。

<https://www.youtube.com/@enbiogroups/videos>

メディアでも取り上げられる機会の増えている『PFAS問題』についても取り上げております。ご覧いただければ幸いです。



チャンネル登録
よろしくお願いたします

将来の見通しに関する注意事項

本資料および本説明会における予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、将来の予測であってリスクや不確定要素を含んだものであります。従いまして、実際の業績等は、様々な要因により記載の内容とは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向や競争激化による価格下落圧力などです。なお、業績に影響を与えうる要因は、これらに限定されるものではありません。

お問い合わせ先
株式会社エンバイオ・ホールディングス
IR担当者

E-mail
info@enbio-holdings.com

Website
<https://enbio-holdings.com/>